

環境教育教材として動物園で作成したワークブックについて

- 山本秀明¹⁾、三浦圭¹⁾、朝倉卓也¹⁾、弓山良¹⁾、足利真宏¹⁾、石川直道²⁾、辻岳人³⁾、
幅崎雅仁⁴⁾、大石幸志⁵⁾、菊田融⁶⁾、山本祐嗣⁷⁾、小峯秀行⁸⁾、上田美香⁹⁾

(¹⁾ 札幌市円山動物園、²⁾ 札幌市立駒岡小学校、³⁾ 札幌市立豊平小学校、⁴⁾ 札幌市立伏見中学校、⁵⁾ 札幌市立新琴似小学校、⁶⁾ 環境教育指導者、⁷⁾ 江別市立野幌中学校、⁸⁾ 北海道真駒内養護学校、⁹⁾ 北海道札幌旭丘高等学校)

【目的】

これまで、小学校の総合学習等で利用されてきた学校側で作成したワークシートは、「考える、観察する」を主眼にしており、「事実或いはその動物の特徴を知る」ことで、目的が達成されるケースが多かった。しかし、このワークシートでは、「事実或いはその動物の特徴を知る」ことが児童の思考の最終地点となり、「動物と人間とのつながり」や「動物と自然環境のかかわり」等の動物園が伝えるべき側面につなげていくことが困難であった。

そこで、円山動物園では、楽しみながら命の大切さや環境メッセージを伝えるため、主に小学校の総合学習での活用を想定した教材ワークブックを教員・研究者らと動物園スタッフで共同開発した（作成期間：平成20年4月～平成21年3月）。

【主な特徴】

- 小学校低学年用と高学年用に分けて、複数の教材を作成した。
- 低学年用は、クイズ形式やぬりえなど、楽しみながら命の大切さを感じたり、環境教育の基盤となる「気づき、発見」を習得できるようにした。
- 高学年用は、動物を取り巻く問題を「身近な問題」として捉え、自分たちの生活とどのようなつながりがあるのかを考えるきっかけとなるようにした。
- 設問は、動物を深く観察しなければ答えが出てこないものが多く、一つの答えに限らず、個々人の感性により変わってくるようにした。
- 全ての教材は、当園のホームページからダウンロード可能であり、教育関係者が児童の実態に合わせて自由に選択することが可能である。
- Word形式で配信しているため、教育関係者自らが、カスタマイズすることが可能である。



円山動物園ホームページトップ画面

ワークブック低学年用トップ画面

ワークブックアクセス数の推移

【教育機関への周知方法】

- 市内小学校への文書送付 ○ 市内校長会での周知 ○ 動物園だよりへの掲載
- 報道機関へのプレスリリース

【小学校低学年用ワークブック教材】

- クイズ形式オリエンテーリングタイプ編
- どうぶつの「えっ!？」編
- どうぶつのぬりえ編
- どうぶつはっけんたい!編
- やせいどうぶつをさがせ!編
- どうぶつになって!編
- 素材集

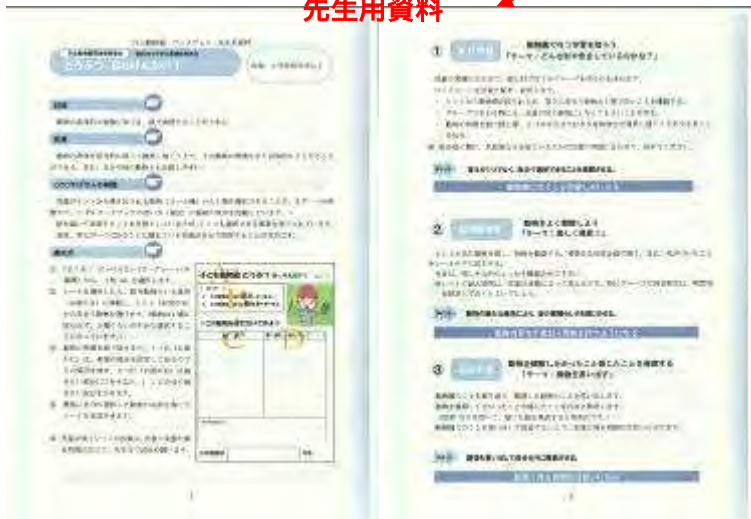
例(どうぶつはっけんたい!)

教材のねらいや活用法の説明

答えはいくつもある

先生用資料

児童用シート



【小学校高学年用ワークブック教材】

- ホッキョクグマ編
- オオワシ編
- チンパンジー編
- オランウータン編
- ヒグマ編

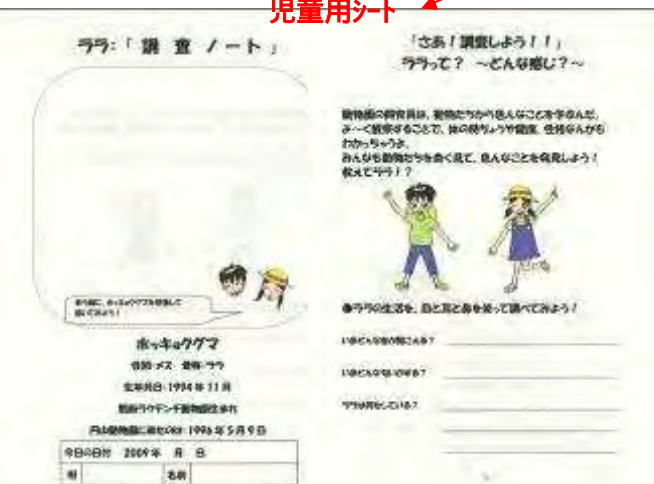
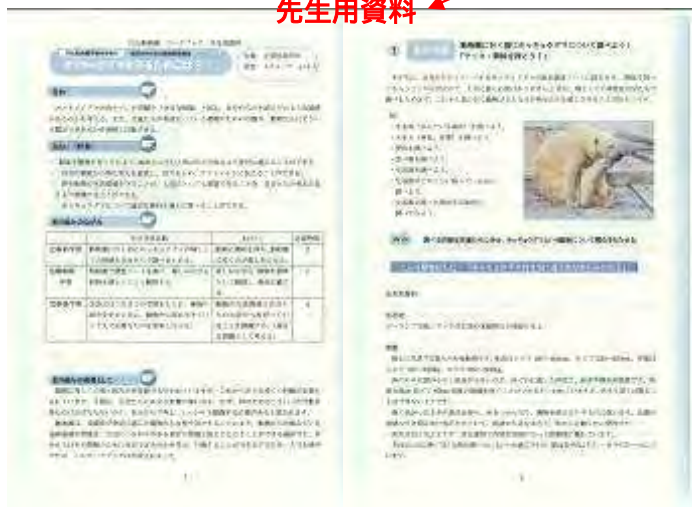
例(ホッキョクグマ編)

環境問題や減少理由も記載

個体に興味を持ってもらう

先生用資料

児童用シート



【実際の活用】

- 教育関係者が教材の一部を自由に選択し総合学習の時間に活用。
 - 札幌市環境教育リーダー派遣事業と共同による学習効果アップ。
- プログラム内容:「ジャングルゲーム」「エゾシカを探せ」



ジャングルゲームの様子

【課題と今後の展望】

- 特定の動物をしっかりと観察することを目的としているが、滞在時間が短い場合のプログラムの組み立てが困難。特に絵を描かせるのは時間的に難しい。
- 設問に答えるための行動が時間内に見られないことがある(例:カンガルーのジャンプ)。
- 教育機関での活用状況が把握しづらいため、今後は、使用状況調査を実施し、意見を取り入れた上で、活用しやすい教材を適宜提供していくことが必要である。